

<p>活 動 名</p>	<p>学校花いっぱい推進支援事業</p>
<p>活 動 概 要</p>	<p>花作りは自然相手の作業であり毎年気候との戦いである。本年度は9月に入って残暑が長く続きビオラの育苗が難しかったが悪戦苦闘しながら何とか例年通り苗作りを行うことができた。新型コロナウイルスの感染拡大が続いたが、本年度も花作りは互いに密を避け感染予防に努めながら継続することができた。</p> <p>この事業は9年前から取り組んでおり、県本部より助成を受けてから7年目となり試行錯誤を積み重ねながら、春秋全シーズンを通して学校・園の花いっぱい活動に貢献して来ている</p> <p>熊毛地区内には幼稚園・保育園8園、小学校5校、中学校1校、高校1校がある。いずれの施設も花いっぱいの環境づくりには力を入れている。各施設で苗を育てるにしても育苗方法や管理等、先生方や職員の過重な負担と時間がかかる上、かなりの経費がかかり、なかなかそこまでは手が回らない。そこで、年2回春と夏に会員の畑を借用し、協力して花壇や鉢栽培用の花の種を蒔き、苗を栽培して配布することにより、各施設の花壇に植えてもらって、花いっぱい活動の支援をしている。</p> <p>……▶ 種まき→育苗→(ポットへ移植)→苗の配布→各校・園で栽培→種取り ……▶</p> <p>花いっぱい活動は、心豊かな子供達を育てる気運や園・学校・地域の美しい環境を醸成することができ、各地で好評を得ている。苗作りは気象条件に左右されることから神経を遣うが、毎年喜んでもらえており、さらに、花の種類や数、苗の定植の時期、花の管理の仕方など現場の声を聞き、質の良い苗を安定的に供給できるよう模索していきたい。</p> <p>【夏の花栽培の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花の種類 サルビア、マリーゴールド、ポチュラカ (各約1000本) メランポジウム、千日紅(各約400本) ・4月 畑づくり、種まき ・5月 育苗、灌水、草取り、間引き ・6月 苗の配布 ・11月～ 種取り <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="406 1518 935 1727">  </div> <div data-bbox="1018 1518 1490 1727">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="421 1733 887 1771"> <p>耕運して種まき作業 (4月12日)</p> </div> <div data-bbox="1023 1727 1437 1789"> <p>細かく大変な間引き作業仕事 (5月14日)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="406 1771 935 2119">  </div> <div data-bbox="1010 1803 1490 2119">  </div> </div>



長期間色鮮やかな花壇のサルビア
八代小（9月5日）



花壇いっぱい咲いた花
高水小（8月24日）



サルビアとポーチュラカがよく咲いた
勝間小の花壇（8月24日）



植え込みの下で咲きそろった千日紅
熊毛中（8月30日）

【ビオラ栽培の概要】

- ・ 8月下旬 種まき
- ・ 9月上旬 ポットへの移植、灌水、育苗
- ・ 10月下旬～11月上旬 苗の配布（約1200本）
- ・ 翌年5月 種取り



播種後10日余りで発芽（8月30日）



セルポットへ移植(9月4日)



ポットへの移植作業(9月21日)



生長不良の苗（10月14日）



配布準備ができた苗 約1,200本
(10月30日)



車での配布準備 (10月31日)



玄関前のフラワーポットによく咲いた花
熊毛中(令和4年4月6日)



ボリュームのある一鉢栽培のビオラ
高水小(4月6日)



たくさんの花が見事に咲く
勝間小(4月6日)



花壇を彩るビオラ 三丘小(4月6日)

成 果

この事業を通して次のような成果があったと考えている。

- ① 各校や園等に苗を継続的に配布しているので、毎年当てにして待っておられる。先生方の管理の技術も上達しており、各学校で花いっぱいへの取組が積極的になり、大きな成果を上げている。
- ② 各校に花の苗という目に見える具体的支援を継続的に行うことにより、教育会への理解も深められ、花いっぱい活動への貢献は会員の加入者増にもつなげることができたと思われる。
- ③ 助成金を有効に活用することにより各学校だけでなく、幼・保育園などに苗を広範囲に配布できた。また、花作りには土作りが大切であることから培養土を配布したところ、とても喜んで頂けこれまで以上に花いっぱい活動の支援をすることができた。

今後の課題

これからの課題として次のようなことが考えられる。

- ①本年度6月に市から「花壇コンクール」を廃止するという通知が各校園へ来た。突然のことで驚き、先生たちも世話をする意欲が少し減退した、などと落胆の声が聞こえた。市は苗の提供も中止するという。方針だから仕方ないが支部としてはこれまで以上に花苗の提供に力を入れて花いっぱい活動の推進を支援していきたい。
- ② 夏の花について、その年の気候の状況をよく把握し、各校の栽培の様子や管理方法、要望等にも耳を傾けながら、栽培しやすい花や彩りのよい花の苗を配布していきたい。
- ③ 苗の栽培は土質や種、天候や管理の仕方などに左右される。また、毎年続けて種を取っていくと花が劣化していくものがあり店頭に見られるようなそろった上質の苗を作るのはなかなか難しい。今後も研究を重ねていく必要がある。
- ④ 苗を配布してもいつまでも植えられていないことがあるので、苗の出来る時期と学校の花壇の植え替えの時期が合うように状況をよく見ながら育苗する必要がある。
- ⑤ 現在は主に小・中・高等学校に配布し、わずかながら幼・保育園にも配布している。市の苗の配布事業も廃止となることから、さらに花苗作りに力を入れていきたい。